

シグマ研究委員会光核反応データWG第3回会合議事録

日時： 1989年12月13日（水） 13:30-17:45

場所： 原研本部 No. 5 会議室

出席者： 浅見、井頭、五十嵐、井口、菊池、岸田、喜多尾、北沢、小林、村田

欠席者： 上松

議事：

1. 一般報告

(a) 菊池委員

- i. 11/1日付で石井物理部次長が鹿園委員長に代わってシグマ委員会委員長に就任した。
- ii. 委員会旅費が逼迫しており、できれば今年度中のWG開催は見送って頂きたい。

2. 評価方法紹介

- (a) 北沢委員より E1 巨大共鳴の位置と強度の各種理論計算法の紹介がなされた。
- (b) 岸田委員より photoneutron cross section から photoabsorption cross section と photoproton cross section を推定する方法の紹介がなされた。sum rule と計算コードによる p, n の分岐比を用いれば、20%程度の精度で評価可能であるとの結論である。

3. 評価中間報告

- (a) 浅見委員より ^{186}W の photoneutron cross section の実験値の紹介がなされた。実験データが1例しか無いとのことである。
- (b) 村田委員より ^{16}O のデータの紹介が行なわれた。かなりの実験データがあり、評価上大きな問題は無さそうとのことである。
- (c) 北沢委員より ^{12}C のデータと理論計算値との比較の紹介が行なわれた。この核に関しては、Coupled Channel Model が非常に良く実験を再現するとのことである。

4. その他

- (a) 岸田委員より CRC の来年度委託作業として PICA コードの評価を行ないたいとの提案がなされた。特に反対意見も無く了承。

- (b) 浅見委員より、NEDAC 委託作業の「光核反応実験データの収集」を来年度以降 どの様に進めたら良いか議論して欲しいとの提案がなされた。本 WG とし
の意見の取りまとめはできなかったが、CINDA のような反応文献リストがあ
ると便利なので、そのようなデータ・ベースの作成を優先的に進めた方が
良いという意見が多かった。

5. 次回予定

- (a) 旅費窮乏のため今年度中の WG 開催を見送り、次回は平成 2 年 4 月中に原研本
部で開催予定。
- (b) 主な議題は、
- i. 離散レベル構造を考慮した Hausser-Feshbach 理論による光核反応断面積
の計算 (五十嵐委員)
 - ii. Fe, Bi, Cu, Pb, N 核の評価中間報告 (各担当委員)。

配布資料:

- PNWG-89-4 : 実験データの共分散とその必要性 (小林)
- PNWG-89-5 : Data Format for ENDF/B-V Covariance File (浅見)
- PNWG-89-6 : E1 Dipole Strength の計算 (北沢)
- PNWG-89-7 : ^{186}W Photoabsorption Cross Section (浅見)
- PNWG-89-8 : ^{16}O 光核反応データ調査 (中間報告) (村田)
- PNWG-89-9 : 未測定 σ_{abs} の評価法 (岸田)
- PNWG-89-10 : 光核反応実験データの収集 (EXFOR ファイル作成) 作業につ
いて (浅見)